

市民と創る未来の日立市創造のための産官学連携組織構想

(自治体等側) 日立市 市長公室 政策企画課長

飛田 誠

(大学側) 茨城大学 工学部 都市システム工学科・教授

桑原 祐史

連携先

日立市

プロジェクト参加者

飛田 誠 (日立市 市長公室 政策企画課長、
事業担当責任者)

藤田 敦 (日立市 市長公室 政策企画課、
副参事(兼係長)、助言・資料及
び情報提供)

小河原 彬 (日立市 市長公室 政策企画課、
主事、助言・資料及び情報提供)

プロジェクトの実施概要

① プロジェクトの目的

茨城県東北の市町村の人口減少速度は著しく、日立市・常陸太田市・高萩市・北茨城市・常陸大宮市の各市町村は、2040年までに現状規模の70～80%の総人口規模になることが予測されている¹⁾。本申請では、このような人口減少予測がある中、日立市に焦点を絞り、「市民皆が安全安心(=幸福)を感じることができる都市」であるためにはどうしたら良いのか、茨城大学が中核機関となり、シンクタンク的な役割を産官学+市民で作り上げる場：プラットフォームとして「日立未来共創リビングラボ」の立ち上げに向けた検討を進めることを目的とした。

引用文献：1) 茨城県人口ビジョン, p.19, 茨城県, H27.10

② 連携の方法及び具体的な活動計画

茨城大学特色研究加速イニシアチブ経費(2020年, 2021年: 茨城大学地球・地域環境共創機構(GLEC)・人文社会科学部・工学部および日立製作所)の支援を受け、「地域社会の将

来像を描く(日立市, 県北中心)」プロジェクトを推進してきた。市民や研究者に対するアンケートを行い、将来の日立を考える上でのポイントを整理したり、リビングラボの初期的な構想の議論を行った。そのプロジェクトを推進する過程で、日立市市長公室政策企画課と2回のディスカッションを行い、当時、工学部が検討を進めていた「3Sプロジェクト(Scientifically Sustainable Life Support Hitachi Project)」を紹介した。日立市は2022年(令和4年3月)に新たな日立市総合計画を策定した。これらの活動実績やプラン推進に貢献したいという茨城大学の発想に基づき、日立市政策企画課及び関連大学とプラットフォームの立ち上げに向けた具体的な検討を進めることとした。

③ 期待される成果

リビングラボという概念は、1990年代にアメリカで生まれ、2000年以降、多くの国々に広まった研究開発組織の考え方である。いわゆる、研究開発の場を市民生活に密接に連携する場に置き、組織や立場にこだわらない多くの方々参加を得て地域課題のソリューションを生産する場である。

「日立未来共創リビングラボ」の立ち上げにより、地域課題解決に係る連携体制を構築することができる。

プロジェクトの実施成果

① 活動実績

議論の中で、既存の市民活動組織が行う活動内容と明確な仕分けを行い、大学が持つアカデミック性を活かした仕組みの提案を計画した。そして次年度以降、日立市政策企画課

及び茨城キリスト教大学、茨城大学等の関連大学が地域課題や連携内容を自由に協議する場（仮称：日立未来共創リビングラボ）を設けることとなった。

② プロジェクトの達成状況

課題や連携内容を自由に相談するための協議の場（仮称：日立未来共創リビングラボ）を設けることが合意された。

③ 今後の計画と課題

次年度以降、日立市との協議の場においてさらなる連携に向けた話し合いを進めていく。例えば、日立市の桜をテーマにした取り組みや建設関連分野を対象とした人材育成に向けた取り組みなど様々な地域課題についても意見交換を行っていく考えである。